



小学6年生のキャプテン
あつき
鳥居篤希くん

小学4年生から所属し、今は6年生チームのキャプテンを務めています。「勝ってみんなで喜ぶことが嬉しい。ポジションはショートで、守備をもっと上手になりたい」



小学5年生のキャプテン
るき
佐藤琉稀くん

前に所属していたチームでは教えてもらえなかったことも学んでいるそう。「新チームでもそのままキャプテンになる予定なので、チームをまとめて勝りたい!」

中小田井JBCと一緒に野球しよう!!

活動内容/軟式少年野球小学生の部
活動日/土・日・祝日9:00~日没(試合などにより変動あり)
低学年は土曜日午前中のみ
練習場所/中小田井小学校ほか
入団資格/小学校5年生以下の児童
団費(月謝)/2000円/月、1~3年生は1000円/月※別途後援会費500円/月

体験入団も行っています。

事前に下記までメールにて連絡を。
メールアドレス:nakaotai_jbc@yahoo.co.jp
活動状況などはこちらのサイトをチェック
http://51.xmbs.jp/nakaotaijbc/



野球は試合が勉強の場。練習では基礎を反復練習するというのが野中監督の方針。コーチ、保護者の見守るなか、子どもたちはランニングやキャッチボール、バッティング練習を大きな掛け声とともに繰り返していました

イチロー杯争奪学童軟式野球大会の優勝を目指す

中小田井 NAKAOTAI JUNIOR BASEBALL CLUB
ジュニアベースボールクラブ

巻頭特集

中小田井学区の小学生を中心に

44名の子どもたちが所属する中小田井ジュニアベースボールクラブ。

「楽しく、元気に、一生懸命」をテーマに掲げ、監督やコーチと保護者が一丸となって

子どもたちをバックアップしています。

温かなまなざしで導く監督と、寒空の下でも元気いっぱい白球を追う子どもたちを訪ねました。

文/南部武寛 写真/D-Studio デザイン/ウイリング



野中朋徳監督

取材の合間にも子どもたちに冗談を言って場を和ませる野中監督。子どもたちと真正面から向き合う姿が印象的でした。これまでの活動で野球の指導者としても学ぶことが多かったそうです

子どもの成長を感じた保護者からも感謝の声が

中小田井JBCでは、「楽しく、元気に、一生懸命」をテーマに活動しています。ただ、楽しむといっても、組織の中で忘れてはいけないことを身につけるのが大前提です。「少年野球ではよく、練習中も声を出そうといわれますが、ただ声を出すだけではなく、理解してもらわなくてはいいけないと考えています」

中小田井JBCでは、子どもたちの野球を通じて成長を願う保護者が

野中監督は香川県出身で、高校時代に野球を経験しましたが、社会人になってからは草野球を楽しむ程度。そんな監督がチームを設立しようと考えたのには、わが子の存在があったそうです。「中小田井小学校に息子が2人通っていますが、上の子が入学するときに、チームの設立を決心しました。上の子は内気な性格で、ひとつでも何か自信を持ってもらいたいと、それまで野球を教えていました。そんな息子に小学校に入ってから野球を続けて欲しくて、チームを作ろうと思ったのです。でも、監督になったら、息子だけじゃなく、どの子もかわいいですよ」と目を細めます。「子どもも勝ったら嬉しくて、負けたら悔しい。大人よりも考え方はシンプルです。そんな子どもたちと向き合いながら、大人の考えを押しつけてはいけないと思っています。それでいて大人と素直に話ができる、挨拶がきちんとできる子になってほしいと願っています」

子どもの成長を感じた保護者からも感謝の声が

中小田井JBCでは、「楽しく、元気に、一生懸命」をテーマに活動しています。ただ、楽しむといっても、組織の中で忘れてはいけないことを身につけるのが大前提です。「少年野球ではよく、練習中も声を出そうといわれますが、ただ声を出すだけではなく、理解してもらわなくてはいいけないと考えています」

中小田井JBCでは、子どもたちの野球を通じて成長を願う保護者が

野中監督は香川県出身で、高校時代に野球を経験しましたが、社会人になってからは草野球を楽しむ程度。そんな監督がチームを設立しようと考えたのには、わが子の存在があったそうです。「中小田井小学校に息子が2人通っていますが、上の子が入学するときに、チームの設立を決心しました。上の子は内気な性格で、ひとつでも何か自信を持ってもらいたいと、それまで野球を教えていました。そんな息子に小学校に入ってから野球を続けて欲しくて、チームを作ろうと思ったのです。でも、監督になったら、息子だけじゃなく、どの子もかわいいですよ」と目を細めます。「子どもも勝ったら嬉しくて、負けたら悔しい。大人よりも考え方はシンプルです。そんな子どもたちと向き合いながら、大人の考えを押しつけてはいけないと思っています。それでいて大人と素直に話ができる、挨拶がきちんとできる子になってほしいと願っています」

子どもの成長を感じた保護者からも感謝の声が

中小田井JBCでは、「楽しく、元気に、一生懸命」をテーマに活動しています。ただ、楽しむといっても、組織の中で忘れてはいけないことを身につけるのが大前提です。「少年野球ではよく、練習中も声を出そうといわれますが、ただ声を出すだけではなく、理解してもらわなくてはいいけないと考えています」

中小田井JBCでは、子どもたちの野球を通じて成長を願う保護者が

野中監督は香川県出身で、高校時代に野球を経験しましたが、社会人になってからは草野球を楽しむ程度。そんな監督がチームを設立しようと考えたのには、わが子の存在があったそうです。「中小田井小学校に息子が2人通っていますが、上の子が入学するときに、チームの設立を決心しました。上の子は内気な性格で、ひとつでも何か自信を持ってもらいたいと、それまで野球を教えていました。そんな息子に小学校に入ってから野球を続けて欲しくて、チームを作ろうと思ったのです。でも、監督になったら、息子だけじゃなく、どの子もかわいいですよ」と目を細めます。「子どもも勝ったら嬉しくて、負けたら悔しい。大人よりも考え方はシンプルです。そんな子どもたちと向き合いながら、大人の考えを押しつけてはいけないと思っています。それでいて大人と素直に話ができる、挨拶がきちんとできる子になってほしいと願っています」



保護者で監督の妻でもある野中春菜さん(左)。「主人が監督になり我が家の生活も180度変わりました。最初は家族の時間も欲しいな...と思いましたが、野球を通じて自信をつけた子どもの成長を見て以来、私も全力で応援しています」 鳥居美奈子さん(右)6年生のキャプテンを務める篤希くんのお母さん。「中小田井JBCでの活動を通じて、仲間を大事にしたいやりの気持ちで、そで挨拶のできる子どもになってくれました」

イチロー選手が上位チームに
メダルをかけてくれるので、
ぜひそれを味わわせてやりたい。

野中監督は、クラブを通して地域住民の絆や触れ合いも大切にしたいと考えています。「子どもたちだけでなく、町ですれ違う保護者同士も挨拶し合えるような仲になってほしい。そのためにも地域に根付いた活動は必須でした」という野中監督の思い通り、クラブにとって自治会や小学校からのバックアップは欠かせないものになっています。たとえば中小田井小学校は練習場所となるグラウンドや体育館を貸し出し、自治会は用品などを提供してくれています。昨年はグラウンドを整備するトンボを新調してもらいました。

野中監督は、クラブを通して地域住民の絆や触れ合いも大切にしたいと考えています。「子どもたちだけでなく、町ですれ違う保護者同士も挨拶し合えるような仲になってほしい。そのためにも地域に根付いた活動は必須でした」という野中監督の思い通り、クラブにとって自治会や小学校からのバックアップは欠かせないものになっています。たとえば中小田井小学校は練習場所となるグラウンドや体育館を貸し出し、自治会は用品などを提供してくれています。昨年はグラウンドを整備するトンボを新調してもらいました。

野中監督は、クラブを通して地域住民の絆や触れ合いも大切にしたいと考えています。「子どもたちだけでなく、町ですれ違う保護者同士も挨拶し合えるような仲になってほしい。そのためにも地域に根付いた活動は必須でした」という野中監督の思い通り、クラブにとって自治会や小学校からのバックアップは欠かせないものになっています。たとえば中小田井小学校は練習場所となるグラウンドや体育館を貸し出し、自治会は用品などを提供してくれています。昨年はグラウンドを整備するトンボを新調してもらいました。